



# 指導方法とリソース

## 外国人児童生徒に向けて何ができるのか 教科指導の側面から

宮城教育大学 教育学部

国際教育研究領域 市瀬智紀

[ichinose@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:ichinose@staff.miyakyo-u.ac.jp)

## 講話の内容（『ガイドライン』31～58頁）

### 【問題意識①】

日本語指導担当ではない一般の教科担当の教員が、外国人児童生徒のいる高校の教室で教えるとき、どのような配慮をしたらよいのか。

- 1. 足場架け（スキャフォールドディングス Scaffoldings）
- 2. フォーカス・オン・フォーム（Focus on form）
- 3. リライト（Rewrite）の種類と方法
- 4. 母語の活用方法

### 【問題意識②】

外国人児童生徒のために高校の教育課程においてどのようなリソースが活用できるのか。

- 5. 教育課程における学習リソース

## 5 日本語指導・教科学習支援の実施形態・場所

	実施形態	科目・時間	指導内容	場所
日本語指導	取り出し指導	選択科目等の時間に「特別の教育課程」として	日本語(対象生徒向けに設計)	別室
	補習(指導)	放課後・長期休業時等に「特別の教育課程」として		
	一斉指導	日本語関係の学校設定教科・科目	日本語・言語文化等の外国人生徒等対象に構成された内容	一般教室
教科学習支援	取り出し指導	教科、学び直しのための学校設定教科・科目等	教科(対象生徒向けに調整)	別室
	入り込み指導		教科(通常授業)	一般教室
	一斉指導		教科(通常授業)	
	補習(支援)	教育課程外	日本語・教科(対象生徒向けに設計)	別室

# 足場架け（スキヤフオールディングス Scaffoldings）

生徒A	生徒B
教科の力、日本語力が一定程度あるが、学年相当とは言い難い。	教科の力、日本語力ともに遅滞している。
<ul style="list-style-type: none"><li>□キーワードに対訳語を与える。</li><li>□複文を事前にチェックする。</li><li>□音声を聞かせる。</li><li>□漢字にルビを振る。</li><li>□重要部分を拡大する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>□リライトする。</li><li>□短文に直す。</li><li>□出現語彙に対訳語を与える。</li><li>□重要部分を拡大する。</li><li>□イラストを工夫する。</li><li>□関連動画を探す。</li></ul>

# フォーカス・オン・フォーム

## Focus on form

---

目標となる語彙・表現を口頭で繰り返す。

---

目標となる語彙・表現をカードで提示。

---

意識化する語彙・表現をアンダーライン

---

学んだ表現を使ったタスクを意図的に設定。

---

目標となる語彙・表現を意識化するように生徒に促す。

---

目標となる語彙・表現をマップ化する。

# 認知力を育てる

## <遺伝的変異が生じる仕組み>

- 合成されるタンパク質の違いは、その個体の形質に影響を及ぼすことがある。DNAの塩基配列が異なっても、合成されるタンパク質に変化が生じない場合を中立という。
- 突然変異のほとんどは、DNAが複製されるときに生じるいわば複製の誤りである。紫外線や放射線、熱などの物理的な刺激や、人為的にもたらされた特定の化学物質などによっても生じる。
- 突然変異は体細胞にも生じるが、その影響は一世代限りで、変異は次世代にはつたわらない。しかし、生殖細胞の染色体やDNAに突然変異が生じると、接合（受精）を通して遺伝的変異が次の世代に伝えられる。
- 遺伝的変異には、アサガオの花の色や形態のように種子を通して子に受けつがれるものがある。
- 生物基礎：東京書籍『生物』より

# 認知力を育てる

- 教科の学習語彙：アンダーライン
- 思考パターンを形成するフォーム：
- ～が...に影響を及ぼす。
- ～の（する）場合を○○という。
- ～しても...しない。
- ～は...によってもたらされる。
- ～は...によって生じる。
- ～すると...する。
- ～は...するものがある。



# 認知力をつけるための思考 の訓練 体験・観察・調査・報告で 必要な日本語 観察の場合

観察する	観察する	観察行動を誘いかける
		形状などを観察する
		動きを観察する
		条件に気づく
		特徴を見つける
	比べながら観察する	比較観察を誘いかける
		違いを観察する
		共通点を探す
	変化を観察する	変化の観察を誘いかける
		変化の結果を観る
		変化の様子を観る

- [資料2 AU一覧（全体）：文部科学省 \(mext.go.jp\)](http://mext.go.jp)



# メタ認知 (Metacognition)

---

- 理科は用語を覚えるのは当たり前で、私にとって難しかったのは実験や観察の手順とか説明する記述問題でした。中学校は一年の途中から入学したので、やっていなかった実験とかはYouTubeで見ても注意事項を覚えていました。
- 記述問題は日本語の文章を自力で作るのが不安で定期試験では文章を丸暗記してましたが、だんだん自分で作るようにして塾の先生に添削してもらってそれで日本語の練習にも繋がったと思います。
- (外国人児童生徒 高校2年生の 高校受験についての語り)

# メタ認知 (Metacognition)

---

- 社会科は特に勉強するのに時間かかりました。定期テストでは一時的に覚えてたので点数はさほど悪かった時は無くてそのためなんとなく勉強していました。実際には模試では一番点数が良くなって本当は語句の意味を理解していなかったのがわかり、教科書を暗記する勢いでノートに語句の意味をまとめていましたがただのとなってしまう全然意味がありませんでした。
- なので勉強するときはある語句がわからないとしたら どうしてそうなったのかという経緯と そこから何が生まれたのかという影響もセットで覚えた方が効率がいいと思います。それに時代の流れを確認するのもとても大切です。どの時代に何があったのかそしてそのあとの時代になったのかをしっかりと確認する必要があると思います。
- 一見やることが多くてめんどくさいと思うかもしれませんが、私の場合はするにつれ、気づくと知識がつながるようになり、最終的には勉強がとても楽しく思え、ハマっていきました。

# リライト（Rewrite）の種類と方法

---

口頭リライト

---

要約リライト

---

全文リライト

---

ポイントリライト

---

注釈リライト

---

光元・岡本（2006）

# 母語の活用

---

母語通訳者の配置

---

教科内容、学習語彙の翻訳を与える。

---

日本語でやりとりし、日本語で表現する。

---

日本語と母語をつかってやりとりし、日本語で表現する。

---

日本語と母語を使ってやりとりし、日本語と母語で表現する。

# 外国人の 家庭でも 日本語で 会話して もらった 方がよい のか？

---

日本の学校で学ぶことにより、母語・母文化の問題への接触機会が減少。

---

小学校高学年以降においては、母語で形成された学習言語能力の基盤が継続されなくなる。

---

母語母文化によって立つ児童生徒のアイデンティの確立が揺らぐ。

---

「継承語」という位置付けで母語・母文化を尊重し、習得を援助することが望ましい。

---

外国人家庭では生活言語の獲得を促すことは難しい。

# 異文化受容の4タイプ (Berry, J.1997 ベリー)

## 統合 (Integration)

自分の文化を保持しながら新しい文化を取り入れていく態度

## 同化 (Assimilation)

自分の文化の保持をせずに新しい文化に適応していく態度

## 分離・離別

(Separation/Segregation)

自分の文化を維持し新しい文化との関わりを避ける態度

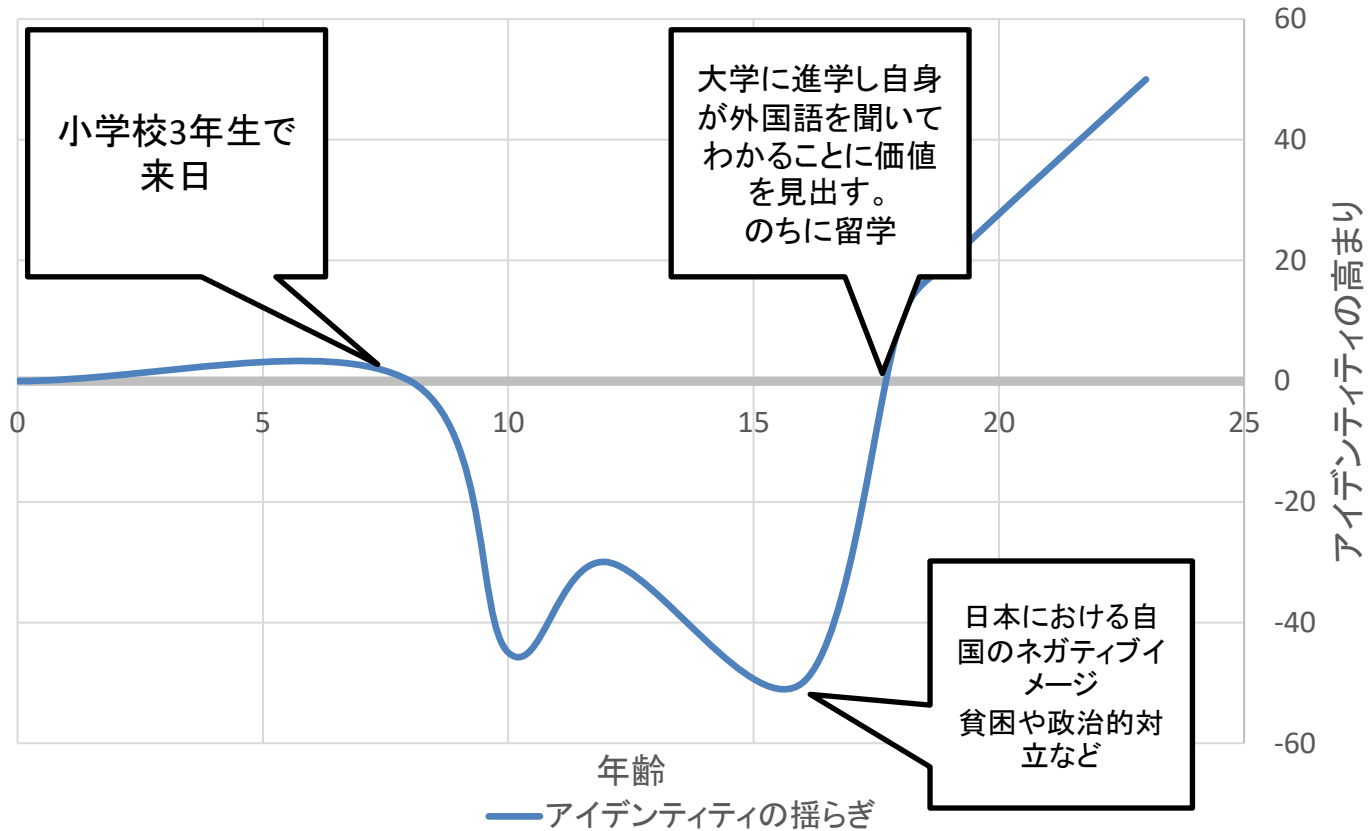
## 境界化 (Marginalization)

自分の文化の保持もせず新しい文化への適応にも無関心である  
態度

# 異文化受容の4タイプ

- 成績も優秀で自分の出身国や文化の話も進んで紹介する生徒。
- 出身背景について語ることはなく、完全に日本人グループに合わせようとする生徒。
- 出身国の生徒でグループになり、日本人の生徒とかかわろうとしない生徒。
- 何事にも無気力で、関わりを持とうとしない。授業で出身地域の話題を向けても反応ない生徒。
- ⇒みなさんの学級・学校の児童生徒はどのような状況あると思いますか？

# 発達段階におけるアイデンティティの揺らぎ（模式図）





---

# 教育課程における学習リソース



---

外国人児童生徒のために高校の教育課程においてどのようなリソースが活用できるのか。

中学校  
教科学習

中卒資格  
高校進学

高等学校  
教科学習

上級学校進学  
専門資格取得

## 言語能力の向上

取り出しクラス  
習熟度別クラス  
通常クラス  
特別の教育課程  
JLPT対策  
TOEIC(英語)

新学習指導要領；  
特色ある教育課程、社会に開か  
れた教育課程、資質・能力の形成  
にポイント

## 日本人生徒との協働の場の設定

教室学習  
部活動  
修学旅行  
特別活動  
総合学習・探究学習  
の活用  
(課題研究)

地域コミュニティによる包摂

地元職場体験  
企業インターン  
地域課題とのマッチ  
ング  
プロジェクトへの参  
加

地域団体・NPO団体  
との協働

# 公立高校 普通科1

---

- 以下の事例は宮城県国際化協会編「外国籍児童生徒サポート事例集～多文化な子どもたちの未来をひらくために～」改編
- S.H.さん(日本／フィリピン出身)S.H.さんは日本生まれ。
- 約8年間で日本で過ごした後、家族でフィリピンに移住。小学校6年間、ハイスクール4年間という、当時のフィリピンの通常の教育を終えてから、16歳で日本に戻る。
- フィリピンでは大学に進学できる年齢だった、日本の制度上では中等教育の年数が2年足りておらず、大学に進むことはできなかった。
- はじめは専門学校か、高等学校卒業程度認定試験を受験してから大学へ進学すること、または就職することを考えていましたが、**実際に高校を訪問し、授業や部活の様子を見学しているうちに、高校進学を考えるようになった。**
- 最初に受けた自宅近くにある県立高校は不合格になったため、二次募集をしていた別の県立高校を受験し、合格。**どちらの入試でも配慮申請をして、英語、数学、作文、面接の試験を受け合格。**
- その高校は国際理解教育に熱心に取り組んでいて、異文化や英語に興味がある生徒が大勢いた。**そのことはS.H.さんにとって大きな助けとなった。**
- **学校の授業や部活動を通して、S.H.さん自身もグローバルな視点で物事を考えるようになった。**
- 勉強にも引き続き熱心に取り組んだおかげで、成績も順調に伸び、推薦入試で公立大学に進学した。

# 公立高校 普通科2

---

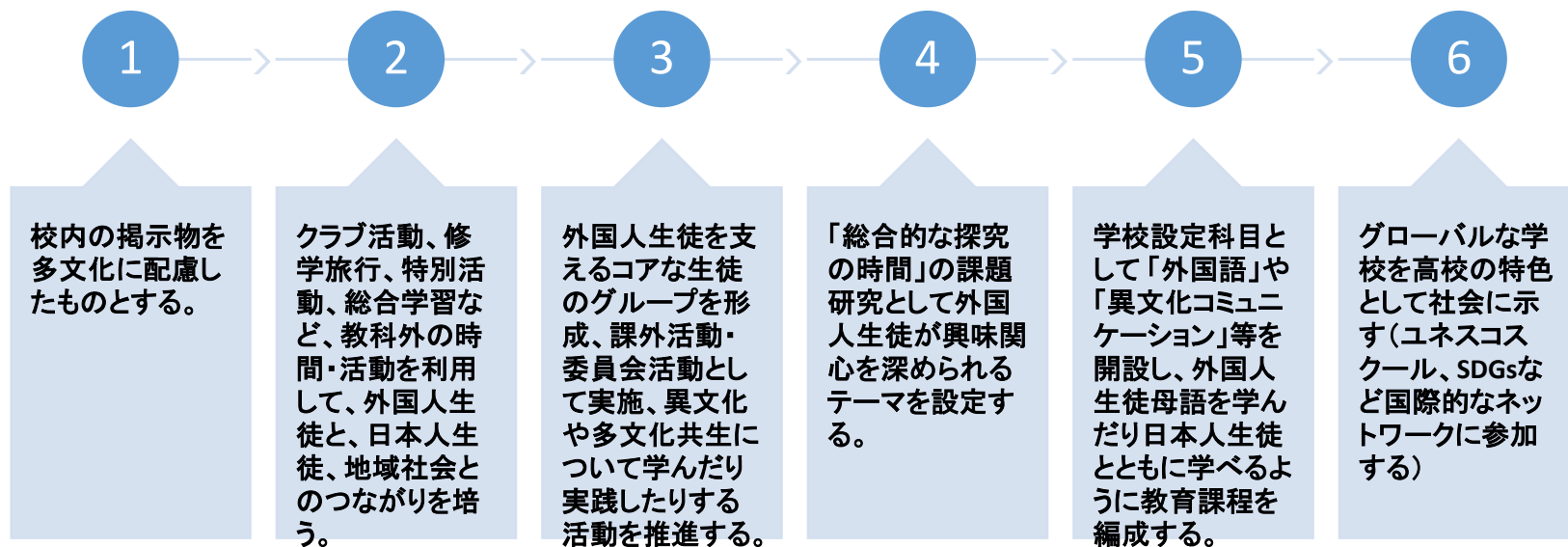
- C.M.さんは、中学卒業後に来日。国際化協会の日本語講座で日本語を学びながら、支援団体のサポートを受けて、教科の勉強をした。
- C.M.さんは英語が得意だったので、英語教育に力を入れている高校への進学を考えた。複数の学校を見学した結果、学校の雰囲気が自分に合っていたことから、**国際コースのある県立高校を目指す**。その高校には複数回見学に行き、学校の先生方にその間の日本語能力の伸び具合を見てもらった。
- 受験の際には配慮申請をして、英語、数学、作文、面接の試験を受けて、無事合格。
- 持ち前の明るい性格も幸いし、充実した高校生活を過ごした。学校の先生たちは、「**C.M.さんが来てから学校の雰囲気が変わった**」とまで言われた。
- **バスケットボール部に所属**し、対外試合でも活躍。
- 勉強にも力も入れ、支援サポーターとの勉強を続け、大学進学を目指した。
- AO入試で、私立大学に進学。大学在学中も勉強やサークル活動に取り組むだけでなく、学外で行われたシンポジウムなどにも積極的に参加して発言するなど、自分の考えを積極的に発信した。

# 私立高校 普通科

---

- O.Y.さんは、中国で通っていた高校を途中で辞めて来日し、私立高校に入学。
- 日本語はあまり話せなかったが、**学習意欲がとても高く**、授業の予習・復習を欠かさなかったほか、母国出身の先輩のアドバイスを受け、授業でわからなかった箇所を**積極的に先生に質問する**ことを心掛けた。
- 定期テストでは、国語、歴史には苦勞したが、**数学、英語、化学、生物などでは、毎回良い成績を収めることが出来た**。学校以外でもいろいろな方法で学習を進めた。日本語夜間講座、サポーターと教科の勉強をした。オープンスペースで自習中に知り合った日本人男性とも日本語の勉強をした。本人曰く「日本語の勉強と教科の勉強が同時に始まったので大変だった」。
- 理科、特に**生命科学の分野に関心が高く、顕微鏡や解剖用のキットを買い揃えて自分で釣った魚を解剖して観察することにも熱中**。
- 医科薬科大学の生命学科に推薦入試で進学を果たした。毎日、ほぼ12時間以上研究室で実験。将来研究者になることを目指して大学院に進学。

# 学校内のリソースの活用と改善



# 具体的事例『ガイドライン』

---

手引き 大阪府立東淀川高等学校

---

第3部 母語・母文化教育 事例1 集住地区 総合学校高等学校

---

第3部 母語・母文化教育 実践例1 NPO法人フィリピノナガイサ

---

第3部 異文化間教育 事例2 認定NPO法人カタリバ

---

第3部 市民性教育 実践例2 大阪府立大阪わかば高等学校

---

第3部 市民性教育 実践例3 東京都立小山台高等学校

# 外国人生徒教育を 今日的な 教育の潮流(トレンド)と結び つける

多様な他者との協働  
主体性・多様性・協働  
(学習指導要領)

課題解決・探究型学習  
課題研究  
(学習指導要領)

地域の抱える課題の  
解決  
人口減少・労働力不足

課程設計(カリキュラム・マネジメント)

人権・平等・公正  
国際目標SDGs  
(誰も置き去りにしない)

社会に開かれた学校  
(学習指導要領)  
高校普通科改革